

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多様な進路希望やニーズに対応した教育課程を編成する。</li> <li>基礎学力の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自己肯定感を育むための学習活動を充実させる。</li> </ul>	<p>① 新教育課程が全学年で完成している。設定科目等が生徒が進路選択をするうえで有効かどうかを検証する。</p> <p>②授業アンケートは良い評価となっている。それを維持及び上げる取り組みとして、生徒の学習活動を充実させる。</p>	<p>① 教科代表者会議等を通じて、教育課程についての意見聴取を行う。</p> <p>②授業アンケートの数値だけでなく、コメントを拾い上げ、改善に生かす。</p>	<p>① 現行の教育課程で、改善すべき点や、次期教育課程を編成する際に、申し送ることはあるか。</p> <p>②昨年度の評価を上回るか。コメントについて、教員がどのように評価するか。</p>	<p>①R9年度入学生からの教育課程一部見直しを行っている。DXハイスクールについては、各科目レベルで出来ることを広げている。</p> <p>②7月に前期分を実施し、集計結果を各教科と共有した、評価数値の平均は3.36であった。</p>	<p>①科目単位数の増減により、全体の単位数調整が難航している。教科代表と連絡を密にして完成させたい。</p> <p>②他者とのコミュニケーションを図る項目の数値が他項目より若干低いため、今後改善するための授業改善を図る。</p>	<p>①DXの魅力伝えるためにも、科目の内容や教育課程に反映させること。</p> <p>②ICTを利用した授業改善に一層取り組み、一人一台端末の利用を含め、生徒の授業に対する満足度を高めてほしい。 ・検定・資格取得にも積極的に取り組み、生徒が自分自身をアピールできるようにしてほしい。</p>	<p>①DX推進のため、商業科目等で具体的な単元と結び付けて実施した。教科情報の内容をより充実させるための工夫が必要である。</p> <p>②一人一台端末の活用する教科は増えてきている。ツールとして利用し生徒の学習活動の幅を広げ、満足度向上に努めたい。資格取得については、それを目的化せず、授業の成果の産物として捉えたい。</p>	<p>①情報Ⅱの単元を確認し、多数の教科でDX推進が図れるように、検討する。</p> <p>②一人一台端末の利用促進のために、充電設備の整備などを検討することの有用性を生徒に訴え、授業に臨むモチベーションを涵養する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。</li> <li>ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的生活習慣を身に付けさせ、生徒会活動や部活動を通し健全な人材を育成する。</li> </ul>	<p>①かながわ子どもサポートドックなどの取組を通じて、個に応じた生徒支援を充実させる。</p> <p>②学校行事や部活動を通して、自ら考え判断し行動ができる能力を身に付けさせる。</p>	<p>①生徒情報共有会やかながわ子どもサポートドックの情報をもとにスクリーニング会議を行い、アウトリーチ相談支援事業との連携を図る。</p> <p>②状況の変化に柔軟に対応し、生徒が主体的に活動できるよう、教職員と生徒会本部役員が連携を密にする。</p>	<p>①スクリーニング会議における評価をもとにSC、SSWによる支援やアウトリーチ相談支援事業との連携による支援を行うことができたか。</p> <p>②学校行事のアンケート結果から、生徒の充実感・達成感を読み取ることができたか。</p>	<p>①5月に生徒情報共有会、5～6月と9～10月にかながわ子どもサポートドックを実施し、それらを踏まえて6月と11月に各学年でスクリーニング会議を行うとともに、外部機関との連携による支援を行った。</p> <p>②体育大会・文化祭のアンケートでは、共に達成感・充実感が95%以上(少し得られた含む)であった。部活動加入率は48%。各行事で生徒会本部を中心に新たな取り組みを発案・実行したが、概ねルールは守られている。</p>	<p>①SC・SSWとの情報共有や外部機関との連携により、支援のニーズを掘り起こし、効果的な支援を行ってほしい。</p> <p>②部活動加入率は減少しているが、現在の部員が活動を継続していくための環境整備を行う。引き続き、生徒の発想を理解し協働できるように、各種委員会とも連携を図る。</p>	<p>①生徒支援については地道によく取り組んでいる。今後、外部機関等の連携を更に強め、支援の充実を図ってほしい。</p> <p>②生徒数減少により、厳しい状況ではあるが、加入率にとらわれずに別の視点での指標を検討してほしい。</p>	<p>①生徒情報共有会やかながわ子どもサポートドックの情報を踏まえてスクリーニング会議を実施し、外部機関との連携も含めて生徒支援を行うことができた。</p> <p>②学校行事に関するアンケート結果は良好であった。部活動については、生徒減に伴い、加入率が減少しているが、入部した生徒が、活動を継続しやすい環境作りに努めた。</p>	<p>①これまでの取組を継続し、SC・SSWとの情報共有やアウトリーチ相談支援事業との連携の強化を図り、支援のニーズを掘り起こし、支援を充実させる。</p> <p>②学校行事では、引き続き生徒の主体的な発案を受け止め、検討し活動に生かせるように支援する。部活動では、インストラクター等の有効活用も含め、入部した生徒が十分な活動ができるように努める。</p>
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度を、体験的な学習の機会を通じて育成する。また、キャリアの発達段階を意識した進路</li> </ul>	<p>①今年度からの大学入試制度や就職に関する提出書類の変更に対応するとともに、生徒一人ひとりが自らのキャリア形成に主体的に取り組むことができるよう</p>	<p>①進学・就職の各説明会において、説明と対応の確認をしていく。ICT等を活用し、細やかな情報提供を行っていく。</p> <p>進路ガイダンスやイン</p>	<p>①進路行事のアンケート結果から、生徒の充実感や進路意識の向上を図ることができたか。</p> <p>情報提供において、どれだけICTを活用できたか。</p>	<p>①進学では、指定校の生徒は全員無事手続きが終了し、現在一般受験に取り組んでいる。就職については、内定者には就職支援セミナーを行い、心構えやマナー等を指導していただいた。進学、就職共に生徒との連絡にclassroomを活用し、事故防止に役立ることが</p>	<p>①説明会は行っているが、生徒の理解が不十分だったり、対応できていないケースがでてきた。生徒の意向の確認やさらなる声掛けで、状況の把握に努めていきたい。</p> <p>外国籍の生徒については、3年の冒頭の説明会で生徒全体に声掛け</p>	<p>①社会状況の変化による進学・就職等に対する考え方も変わってきている。生徒・家庭の状況を確実に把握し、総合ビジネス科・普通科に適した進路指導をお願いしたい。</p>	<p>①必要な時期に合わせて進学、就職の説明会を行い、ICTを活用して情報提供や連絡を行った。学校求人による就職の優位さがわかりにくくなり、アルバイトのままで就職しない生徒が増えたことが課題である。また、縁故</p>	<p>①進学では日々変化する情報をICTを用いて発信していく。就職では、縁故・自己開拓やアルバイトを希望している生徒に対し、保護者面談の際に確認し書面の提出を求めていくことで、家庭内の</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		指導の充実を図る。	に支援する。	ターンシップ等を通じて具体的なキャリア像の形成を図る。		できた。2年生に対し卒業生による進路講演会を、1年生に対しインターンシップ報告会を行い、次年度へ繋げた。	をすることとした。		や自己開拓の就職についても、生徒と保護者で意見が異なり、進路が決められない生徒もいた。	意見の一致を確認するとともに、学校求人への変更の有無を確認していく。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携や協働活動を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。</li> <li>本校のPR活動を積極的にを行うなど広報活動を充実させ、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。</li> </ul>	<p>①小田原市や地元自治会など地域との連携を積極的に深め、生徒の地域への関心を高めさせる。</p> <p>②近隣の小中学校など他校種による交流の場を企画するとともに、様々な場面で本校のPR活動を行っていく。</p>	<p>①ボランティアへの参加や自治会との交流を積極的に図り、地域に根ざした学校を目指す。</p> <p>②他校種との連携事業を積極的に実施していく。また、各中学校や外部で実施する中学生に向けた説明会などに参加し、本校の魅力を発信していく。</p>	<p>①ボランティアに参加した生徒や自治会にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。</p> <p>②各説明会で中学生や保護者にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。</p>	<p>①5月実施の海岸清掃については、定期試験と日程が重なってしまい参加できなかった。10月実施の海岸清掃や、地元企業のイベントへ参加できた。</p> <p>②白鷗中学校との連携事業として、部活動交流を実施している。学校説明会では、生徒をスタッフとして活用した。生徒の活動の様子などからも、本校への関心を高められた。中学校教員向けの専門学科の説明会に参加した。</p>	<p>①海岸清掃については20名の参加、地元企業のイベントについては13名の参加であった。ボランティアの内容によって満足度も異なるが、意義を持って参加できるように指導していきたい。</p> <p>②他校種との連携事業について、双方の予定から実施ができていないのが現状である。新たな連携先を探すなどのアクションが必要である。学校説明会では、DX事業として購入した器具を活用しながら本校への関心を高め、魅力の一つとしてつなげていきたい。</p>	<p>①ボランティア活動に積極的に参加していることは評価できる。地域の他の防災訓練や交通安全対策行事等へも参加し地域とのつながりを強めてほしい。</p> <p>②他校種との連携事業は、今後も継続してお願いする。また、現在取り組んでいるDX等の事業を、地域の中学校等に発信し、小田原東の魅力を更にアピールしてほしい。</p>	<p>①海岸清掃や企業など地域との協働作業、募金活動など実現することができた。しかし、全校生徒がボランティアの意義を自覚し積極的に地域貢献できる機会が少なかった。</p> <p>②近隣の白鷗中学校とは、部活動での交流など充実した活動ができたが、他の学校との連携はできなかった。学校をPRするうえでも他校種との交流は行ってきたい。学校説明会では、生徒中心に本校の魅力をPRすることができた。</p>	<p>①全校生徒による地域との交流を設けるだけでなく、生徒のボランティアに対する意識の向上を図る。</p> <p>②中学校との交流の場をさらに拡大するなど、他校種との交流の場を積極的に進めていきたい。また、HPだけでなく広報活動の充実を図ることで、本校の魅力を更に伝えていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の際に、適切に生徒の安全を確保するための行動計画の策定および近隣と協調した活動を推進する。</li> <li>持続可能なPTA活動の在り方を模索する。</li> <li>ヒヤリハットから重大な事故等に繋がる可能性があるため、職員間のコミュニケーションを密にし、今まで以上に風通しのよい職場環境の構築を行う。</li> </ul>	<p>①火災想定避難訓練、津波想定避難訓練、DIG訓練(在生徒が3年間に1回行う)等を実施し、災害時の安全に対する意識の向上を図る。</p> <p>②PTA活動の周知徹底を図ることで、PTA活動に対する理解及び活性化を図る。</p> <p>③不祥事の未然防止に努めるとともに、個々の職員の意識向上を図る研修等を実施する。</p>	<p>①津波想定避難訓練は、地域との協働で実施し、DIG訓練は、地域の外部講師を招いて、地元の地形を周知することで、安全に避難できる場所を学ぶ。</p> <p>②PTAの様々な活動、行事等の精選・見直しをすることで、参加者等の増加及び活動の改善を図る。</p> <p>③事故不祥事に関して定期的にタイムリーな研修を実施する。衛生委員会の活動とおおして、風通しの良い職場作りのために、職場環境の改善を図る。</p>	<p>①火災および津波だけでなく様々な災害を想定した訓練や知識を生徒に学習させることで、防災に対する意識を高めることができたか。</p> <p>②活動の精選及びPTA活動への参加者等が増えたか。</p> <p>③定期的な不祥事防止研修会を通して、職員の意識の向上を図ることができたか。</p> <p>職場環境の改善を図ることができたか。</p>	<p>①火災想定避難訓練を時間を生徒に伝えない形で実施し、生徒からのアンケートからも問題なく実施することができた。DIG訓練は、昨年を引き続き地域の方を講師に招いて1年生に向けて防災学習を行った。</p> <p>②文化祭の協力やPTA主催の講演会を実施し、役員からも好評だった。</p> <p>③職員会議の冒頭等で定期的実施している事故防止会議を実施した結果、年間を通して大きな事故は無く、不祥事も防ぐことができた。職員室のオフィス改善に伴い、環境改善、ペーパーレス化等を実施することができた。</p>	<p>①火災想定避難訓練は事前に実施時間を伝え、現年度も引き続き実施してきたい。DIG訓練は、1年生での実施が好評なので来年度も継続をしていく。</p> <p>②文化祭等は、多くの役員から協力してもらうことができた。PTA主催の講演会を来年度も実施したい。</p> <p>③事故防止会議等がマンネリ化しないよう、研修内容を精査して実施する必要がある。 ・職場の環境改善のために、予算等を精査し、プライオリティを確認して、執行する必要がある。</p>	<p>①今年度は、実際の津波警報発令により、現状の避難体制や方法の課題等が把握できたのではないかと。今後も地域との連携による、より実際に即した訓練の実施をお願いする。</p> <p>②PTA活動も生徒減少の影響を受けているが、ビジネスマナー教育の一環として行われた、2回のオフィスカジュアルデーは、積極的に推進してほしい。</p> <p>③定期的な研修だけでなく、人権等の研修を実施し、職員の人権意識の向上を図っていることは評価できる。今後も様々な取り組みを実施し、規範意識等を高めてほしい。</p>	<p>①火災想定避難訓練を生徒に事前に伝えない形で初めて実施した。避難については、安全に早く行動することができた。津波想定合同避難訓練は、地域の方と一緒に避難することを継続したい。</p> <p>②PTA活動を見直し、PTA主催の講演会を何年かぶりに開くことができた。</p> <p>③不祥事防止に関しては、定期的に研修会を実施し意識向上に努め、不祥事を未然に防ぐことができた。今後は研修方法の改善をする必要がある。また、オフィス改善を効果的に利用して職場環境改善に努めた。</p>	<p>①来年度も、無告知の訓練を継続し、早い時期に訓練の計画を行う。1年生で実施しているDIGを通して、小田原市の地域や地形についての学びを継続する。</p> <p>②10周年記念行事でPTA主催の講演会を実施することで、生徒が学ぶ機会を作る。</p> <p>④研修及び行政課発出文書等を活用して、今後も継続して定期的に研修会を実施することで、職員の意識向上を図ることが重要である。また若手及び中堅に研修を企画させるなど実施方法の改善が必要である。</p>